

2013 年度(平成 25 年度) 事業計画

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

ウッドマイルズ研究会

1. 今年度事業の基本的方針

2003 年 6 月に発足し活動を開始したウッドマイルズ研究会は今年度 11 年目を迎える。急激に変化している国産材や地域材利用を取り巻く環境の中で、今後の活動方針を改めて模索する必要がある。

恒例の催しとなっているウッドマイルズフォーラム(東京)について、ウッドマイルズ研究会発足 10 周年記念フォーラムと位置づけ、ウッドマイルズを活用している各地の関係者の報告と質疑応答を通じて 10 年間による成果と課題を明確化し、ウッドマイルズの今後の意義や利活用方法を問うこと目的として開催すると共に、フォーラムの開催結果を踏まえて、今後の活動方針や方法等について、一般社団法人化等の組織のあり方も含めて検討する。

I. 関連指標及びツールの開発事業

関連指標算出マニュアル及び算出プログラムの維持管理に努める。また、研究成果を元に、必要に応じて数値の改良等を検討する。

II. 普及及びネットワークの形成事業

・ウッドマイルズの活動を、より対外的なものに拡大していくため、建築業界、地方自治体行政、木材業界の 3 つを対象とした以下の運動を柱として展開する。

①建築業界

ウッドマイルズも含め総合的に環境に配慮した木材の調達や利用方針を踏襲した建築づくりを「ウッドマイルズハウジング」と称して、セミナーや懸賞事業を通じて普及する。

②地方自治体行政

都道府県産材認証制度の都道府県間の連携を促すイベント、セミナー等を開催する。

③木材業界

ウッドマイルズや合法性証明を含め、グリーン購入法にもとづく業態団体認定制度を検討する。

III. 情報収集研究事業

森林総合研究所との共同研究「伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発」を継続実施する。4 年目となる今年度も、引き続きモーダルシフトによる輸送過程炭素排出量の変化を試算する。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者	支出額(千円)
関連指標及びツールの開発	マニュアル・プログラムの維持管理	4/1 ～3/31	事務局	1 人	会員他多数	0
普及及びネットワークの形成	ウッドマイルズフォーラム 2012 開催	6/25	東京都	13 人	参加者 100 名(見込)	890
	算出講習会	随時	事務局他	1 人	認定取得者数名	40
	ホームページ更新管理 ニュースレター配信	4/1 ～3/31	事務局	1 人	会員他多数	0
	ウッドマイルズレポート発行	4/1 ～3/31	事務局	1 人	会員数社	60
情報収集研究	伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発	4/1 ～3/7	事務局他	2 人	関係者多数	1,400

2. 研究会の組織(参考)

(2013/6/15 現在)

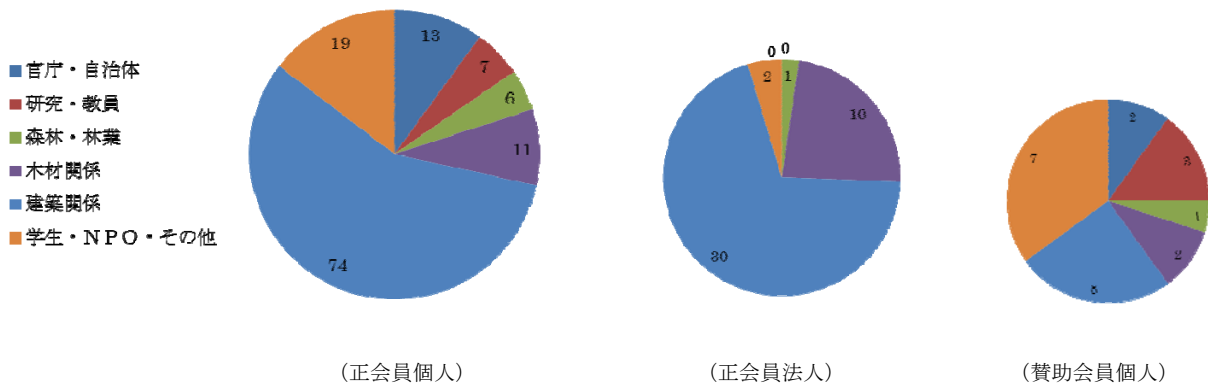
2012 年度末から、全体的に会員が減少しつつある。

種 別	2013.3.31	2013.6.15	備 考
顧問	18 名	18 名	
技術委員	3 名	3 名	
正会員個人	131 名 (※62 名)	130 名	1 名 減
正会員法人	47 社 (※21 社)	43 社	4 社 減
賛助会員個人	23 名 (※13 名)	20 名	3 名 減
賛助会員法人	0 社	0 社	
認定算出技術者	144 名	136 名	8 名 減
ニュースレター配信	480 名	480 名	

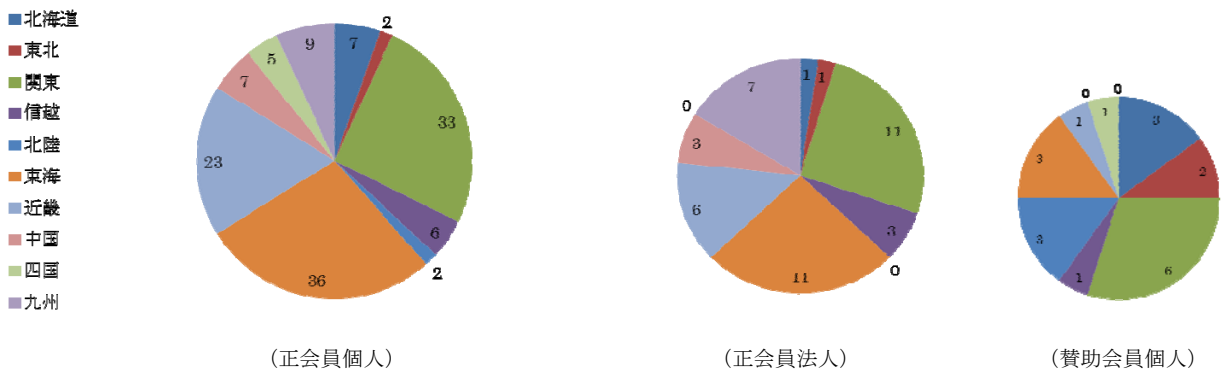
(※会費未納者数)

(↑会費未納者含む)

【属性(人数)】

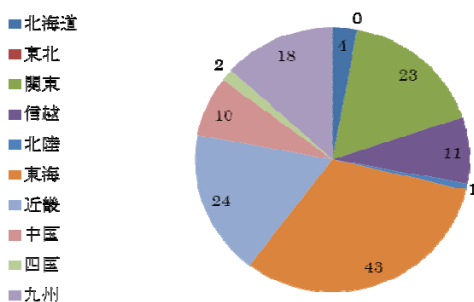


【地域(人数)】



認定算出技術者 136 名

【地域(人数)】



3. ウッドマイルズ利用状況アンケート回答(参考)

【会員:回答数 19 (会員総数 193)】

<ウッドマイルズの利用について>

■利用している(8件)

- ・ FSC 森林認証や地域材を使用することの意義・理念だけでは、ユーザーに対してその住宅の優位性を示すことが困難なこともあることから、ウッドマイルズなどの指標を用いて、客観的な数値として示す取り組みを行っています。ウッドマイルズは、輸送エネルギーの削減ばかりではなく、地域材需要の活性化を目指す取り組みであるとの考えから、地域材を使用することの優位性を示すツールとして活用しています。(相馬秀二さん)
- ・ 通常住宅物件には使わないが、イベントや各団体の集まりの時に利用している。環境配慮に取り組むときに使い説明している。(高見定男さん)
- ・ 設計時、終了時に確認用として(あまり物件はないですが)。(塩田佳子さん)
- ・ 設計した物件に対し計算を行います。その評価を施主その他、その建物の内覧会等に展示等として理解を深めて頂いています。(村上修二さん)
- ・ CO2の削減効果を住まい手にアピール。(三澤康彦さん)
- ・ ウッドマイルズレポートの作成。地域発信の家造りにおいての、Co2排出量の確認。(中島創造さん)
- ・ 京都府産木材認証制度の認証機関として、京都府産木材のウッドマイレージの算出に使用しています。(渕上佑樹さん)
- ・ ウッドマイルズの促進。(松下修さん)

<ウッドマイルズの今後についての意見(特に事業計画①~③について)>

- ・ ②について、今後、法案提出など道州制の動きによる様々な影響が想定される。明治以降(場合によっては以前から)の行政界や商習慣を考慮しつつも、いわゆる県の区割の意味がどうなるのか極めて不透明。今後は全国的に現制度の手直しや抜本的根本的に「地域の木材」を考え向き合う必要が必ずあると思われる。(二野宮雅宏さん)
- ・ 地域では関係者を除くと、ウッドマイルズの認知度は、まだ高いとは言えないと思います。特に、一般消費者については。(認知度を上げることが目的ではありませんが)ウッドマイルズの活動を、より対外的なものに拡大していくことは良いことであると思います。何か、一般消費者の理解が進むような(一般消費者にメリットがあるような)、ことに繋がると良いと思います。(相馬秀二さん)
- ・ 今、地域材に対する補助等に注目されているが、ウッドマイルズを使用する利点を、もっと全国統一的なシステム化をして地域材の普及をしてほしい。(加藤明博さん)
- ・ 地方自治体向けの活動で、行政の施策に盛り込んでもらったらどうか。まずは公共建築物のウッドマイルズの取組から。(志田喜弘さん)
- ・ ウッドマイルズの活用計算結果について、木材業者、工務店、施主への恩恵や優遇など、明確な差別化ができる仕組みとなって欲しい。(高見定男さん)
- ・ ②、③に注目します。グリーン購入法との関連で、全国の主な都道府県でグリーン購入ネットワーク(GPN)という団体があり、北海道 GPN では佐賀県にならって地域材による紙の生産、流通の勉強会を始めています。地域材の事務テーブル、イスなどの認証、認定も望まれます。(近藤勝さん)
- ・ ウッドマイルズも認知度が上がってきているように感じています。PR、普及活動をし、実際の建築現場などでウッドマイルズの表示を見る機会が増えること、国の施策と連動していくことを期待しています。また単にエリアエリアで無垢材を使うことを推奨するにとどまらず、工業製品としての国産材の使い方にまでフォローができる体制になることを期待しています。(小田祐二さん)
- ・ いつも有難うございます。年1回の総会シンポジウムしか参加していないので、自分自身の意識が高まっていません。個人の問題ですね。参加方法がシンポジウムくらいしかないようには感じています。常にお客様の感じです。(鈴木直子さん)

- ・特に②をもっと強化されると、よりウッドマイルズが広まると思います。役所や行政の方針としてウッドマイルズの考え方を盛り込んで欲しい。(塩田佳子さん)
- ・現在、島根においては、しまね木造塾としての活動があり、その他においても何度か評価の仕方など、普及を図っています。上記の様な活動がより活発に行われることを望みます。(村上修二さん)
- ・ぜひ山陰など地方での開催も期待しております。(白枝伸さん)
- ・認定算出技術者の講習会をしてほしい。(青木隆明さん)
- ・あまり役所的なことをするよりは、実践的な利用、活用を望みます。(三澤康彦さん)
- ・公共建築物の木造化のため、地方自治体行政に働きかけ今後のプロポーザル等でウッドマイルズ指標の必須を求める。一般社団法人等への法人化は今後のためにも良いように思います。(河本和義さん)
- ・ウッドマイルズの認知度向上を、エンドユーザーに向けて。(中島創造さん)
- ・②はぜひとも実現させていただければと思います。県の担当者、認証機関の担当者が集まって、じっくり議論できればと思います。(瀧上佑樹さん)
- ・①②③いずれも賛成です。特に③の認証制度は良いと思います。トレーサビリティのみならず、森林との距離がウッドマイルズの意味です。認証制度はどのような貢献をするのか、流通価格を含めて検討してはどうかと思います。また一般法人化は必要だと思います。(松下修さん)

【一般:回答数 13 (配布、送信総数 700)】

(送付) 都道府県木材関係担当 (47)

(メール配信) 顔の見える家づくりグループ (175) + 地域型住宅ブランド化事業採択団体 (478)

<ウッドマイルズの利用について>

■利用している(2件)

- ・地域材利用拡大に向けた普及活動のツールの一つとして利用 (東京都)
- ・京都府の制度として (京都府)
- ・補助金申請の際の必須項目であったため。(田中ナオミさん)

<ウッドマイルズの今後についての意見>

- ・ウッドマイルズは、都民等に地域材の活用を普及するための有効な説明手法の一つと考えていますが、関連する情報は、貴研究会を除きほぼ皆無であることから、引き続き、貴研究会の活動を通じて必要な情報を収集し、活用させていただきたいと考えています。(巽伸広さん/東京都産業労働局農林水産部森林課企画調整係長)
- ・京都府の努力も不足しているのですが、他の自治体への波及や展開がもう少し進んでいないように感じます。ウッドマイルズ+αの何かが必要なのでしょうか。府県の壁も大きいですね。私自身も悩んでいます。(松尾健司さん/京都府モデルフォレスト推進課)
- ・研究会等機会をとらえて参加して、スキルアップをはかりたいと思っています。(田中ナオミさん)
- ・地域型住宅ブランド化事業第二回の採択を受けており、山長商店様とも懇意にさせて頂いています。平成25年度地域型住宅ブランド化事業の申請も考えており、ウッドマイルズ研究会様にも非常に関心があります。林野庁様、国土交通省様を始め、今後の材木界についても色々と学んでいきたいと考えております。重ねて何卒宜しくお願い申し上げます。(山下隆之さん)
- ・日本だけでなく世界の森が失われている現状を心配しています。日本の森も間伐等の手入れなどの仕組みが成立する健全な森を豊かにすることが大切で、そんな仕事に参加することで残りの人生を有意義に送りたい。(池野秀基さん)

2 一般（公益）社団法人ウッドマイルズフォーラム（仮称）の検討

法人としての形態を対外的に明確にし、透明性信頼性を確保するため、将来の公益法人化を念頭に以下の方針の下一般社団法人の手続きを進める。

1 定款

以下の点を含め、現在の会則を基本とし、法人登記に必要な最小限の変更を行う

（1）名称

一般社団法人ウッドマイルズフォーラム

（2）団体の目的

（現行会則）

本会の目的は、木材の産地から消費地までの距離（ウッドマイルズ）に関する指標の開発と普及を行うことである。

（定款）

本会の目的は、循環社会の主役としての木材の環境性能についての理解が広がることの重要性に鑑み、木材の産地から消費地までの距離（ウッドマイルズ）に関する指標の開発・普及および、関連する木材の環境性能の検討、普及を行うことである。

（3）理事会

公益法人化を念頭に、理事会を設ける

2 創設時の役員

創設時の理事会メンバーは運営委員があたる

また、創設時の会長は現会長があたる

3 その他

必要な事項は会長および運営委員に一任する

2013年度（平成25年度） 事業会計収支予算書

2013年4月1日から2014年3月31日

ウッドマイルズ研究会

科目・摘要	金額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
(1) 年会費			
・正会員個人 5,000円×69名=345,000	345,000		
・正会員法人 30,000円×26社=780,000	780,000		
・賛助会員個人 3,000円×10名=30,000	30,000		
・賛助会員法人 30,000×0=0	0		
		1,155,000	
2 事業収入			
(1) 関連指標及びツールの開発事業			
1) 建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル・プログラムの維持管理	0		
(2) 普及及びネットワークの形成事業			
1) フォーラム、セミナー開催			
・ウッドマイルズフォーラム2013（東京）	120,000		
・ウッドマイルズセミナー（開催予定なし）	0		
・算出講習会（随時）	40,000		
2) 情報発信			
・ホームページ情報更新、ニュースレター配信	0		
・ウッドマイルズ関連指標算出及びレポート編集発行	60,000		
(3) 情報収集研究事業			
・伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発（森林総合研究所共同研究）	1,400,000		
		1,620,000	
3 その他			
(1) 利息・雑収入	0		
		0	
当期収入合計（A）		2,775,000	
前期繰越収支差額		200	
収入合計（B）			2,775,200
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 関連指標及びツールの開発事業			
1) 建築物ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル・プログラムの維持管理	0		
(2) 普及及びネットワークの形成事業			
1) フォーラム、セミナー開催			
・ウッドマイルズフォーラム2013（東京）※10周年の歩み冊子印刷費含む	890,000		
・ウッドマイルズセミナー（開催予定なし）	0		
・算出講習会（随時）	40,000		
2) 情報発信			
・ホームページ情報更新、ニュースレター配信	0		
・ウッドマイルズ関連指標算出及びレポート編集発行	60,000		
(3) 情報収集研究事業			
・伐採木材製品の炭素貯蔵シミュレーションモデルの開発（森林総合研究所共同研究）	1,400,000		
		2,390,000	
2 管理費			
(1) 事務局委託費	335,000		
(2) 借損料（総会会場費はフォーラムに計上）	0		
(3) 旅費・交通費	0		
(4) 通信費	25,000		
(5) 支払手数料	15,000		
(6) 消耗品費	0		
(7) 租税公課	0		
(8) 雑費	10,000		
		385,000	
当期支出合計（C）			2,775,000
当期収支差額（A）－（C）			0
次期繰越収支差額（B）－（C）			200